

座長 大塚昌孝 (有限会社 つくし薬局) 佐藤由美子 (名古屋市立大学医学部附属西部医療センター薬剤部) 司会 松本陽子 (NPO 法人患者がんサポートオレンジの会)

がん医療に興味を持つがん患者さん・ご家族・市民の皆さんどなたでもご参加頂けます

日時

2023年3月5日(日) 14:00~16:00

開催形式

現地開催+ライブ配信

会場

名古屋国際会議場 4号館 1F 白鳥ホール(南)

〒456-0036 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-1 (JASPO2023 第3会場)

参加  
無料

# がんと共に 生きる時代へ

～医療従事者との絆～

..... プ ロ グ ラ ム .....

## 1. 患者・アスリートの立場より

オンライン  
登壇

谷 真海 選手 (サントリーホールディングス所属)

走幅跳で3大会連続パラリンピック出場後、トライアスロンへ  
転向し、東京2020パラリンピック出場。旗手も務めた。



## 2. 薬剤師の立場より

湊川 紘子 先生 (聖マリアンナ医科大学病院薬剤部)

## 3. スポーツファーマシストの立場より

大石 順子 先生 (日本スポーツ協会アンチ・ドーピング部会委員)

## 4. ディスカッション

### 参加申込方法

#### 会場参加

申込方法：事前申し込みは不要です。直接会場へお越しください。  
受付場所：名古屋国際会議場 4号館1F白鳥ホール前  
受付時間：2023年3月5日(日) 13:30~14:00

#### WEB参加

申込方法：学会ホームページよりオンライン申込をお願いいたします。  
申込締切：2023年3月3日(金)正午  
オンライン申込はこちら(<https://convention.jtbcom.co.jp/jaspo2023/citizen/>)





## がんと共に 生きる時代へ

～医療従事者との絆～

2人に1人ががんを経験されるといわれる現代、がん治療の発展により生活の質を保ち、長きに渡り付き合う病になりつつあります。がん治療を受ける患者さんやご家族に様々な場面で寄り添い支える。そんな存在の薬剤師を市民の皆さんに知っていただきたいと考えています。

今回、がんを経験されパラアスリートでご活躍されている谷選手を迎え、「がんと共に生きる時代」とそれを支える医療従事者との絆について考えます。



オンライン  
登場

谷 真海 選手 (サントリーホールディングス所属)

Mami Tani

早稲田大学入学とともに入部した応援部チアリーダースで活躍していた2001年冬、骨肉腫を発症、2002年4月に右足膝下を切断し義足の生活に。治療とリハビリを経て、2003年1月からスポーツを再開し、2004年走幅跳でアテネパラリンピック初出場。2008年北京パラリンピックにも出場した。

2011年3月、東日本大震災で故郷の気仙沼が被災し、一時は練習もままならない状態になるも、夢をあきらめず、2012年ロンドンパラリンピックで3大会連続出場を果たし、自己ベスト更新。2013年の国際オリンピック委員会(IOC)総会ではプレゼンターとしてスピーチを行ない、2020年東京五輪招致に貢献した。

2014年に結婚し、佐藤真海から谷真海へ。2015年には出産を経験し、2016年パラトライアスロンへの転向を表明。2017年シーズンから本格的に世界シリーズに挑戦すると、9月の世界パラトライアスロン選手権で優勝し、この競技で日本人初の世界一に輝くなど、出場試合全勝を達成。一時は自身の障害クラスPTS4が、人数が少ないことを理由に東京パラから除外されるという決定が下されたが、障害の軽いPTS5クラスに挑戦することで、2021年、東京2020パラリンピックの出場を果たす。開会式では旗手も務めた。

勤務するサントリーホールディングス株式会社CSR推進部では、次世代育成プログラムの運営に取り組む他、パラスポーツの魅力を広め、真の共生社会の実現を目指すべく、メディア出演や講演活動も行なっている。



湊川 紘子 先生 (聖マリアンナ医科大学病院薬剤部)

Hiroko Minatogawa

2002年3月に東京薬科大学薬学部卒業、同年4月に聖マリアンナ医科大学病院(神奈川県)薬剤部に入職。2009年1～3月に国立がん研究センター東病院にてがん専門薬剤師研修を受け、同年日本病院薬剤師会が認定する「がん薬物療法認定薬剤師」を取得。現在は、医師や看護師などの医療従事者と協同して、外来で抗がん剤治療を受ける患者さんに対して、抗がん剤の説明や副作用の予防や対策についての指導を行っている。また、2012年から地域の保険薬局と合同で抗がん剤の勉強会を開催し、がん治療の医療連携を深める取り組みを行っている。病院外の活動としては、日本がんサポーターブケア学会にも所属し、抗がん剤の吐き気に関する研究を行い、神奈川県下で抗がん剤治療の専門を目指す薬剤師の育成活動にも積極的に関わっている。



大石 順子 先生 (日本スポーツ協会アンチ・ドーピング部委員)

Yoriko Oishi

日本アンチ・ドーピング機構認定スポーツファーマシストの資格を持ち、日本スポーツ協会医・科学委員会アンチ・ドーピング部委員、日本薬剤師会アンチ・ドーピング委員会WG委員、静岡県スポーツ協会医・科学委員、静岡県薬剤師会スポーツファーマシスト委員として、アスリートが意図的に薬物を摂取することを防止し、また、風邪のために風邪薬を飲んだだけでも禁止物質のエフェドリンが含まれているため違反となる「うっかりドーピング」に巻き込まれないようアンチ・ドーピング活動を行っている。また、NR・サプリメントアドバイザーの資格を取得し、日常使う薬だけでなく健康食品やサプリメント等で問題を起こさないように、スポーツ愛好家においてもアドバイスをを行っている。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、静岡県伊豆市に設置された選手村(サイクル村)においてオリンピックのサポートを行い、薬剤師としてスポーツに関わっている。



松本 陽子 様 (NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会)

Yoko Matsumoto

NHK松山放送局で勤務し医療問題を中心に取材をしていた1999年、子宮頸がん罹患。正しい情報と仲間の支えが大きな助けになることを実感した。2008年に地元で患者団体を設立し、翌年にNPO法人化。

厚生労働省がん対策推進協議会や緩和ケア推進検討会などで委員を務め、当事者の声を社会に伝える活動にも取り組んでいる。一般社団法人全国がん患者団体連合会理事。

JASPO  
について

JASPO(日本臨床腫瘍薬学会)は病院、薬局、大学、製薬企業に所属する薬剤師やがん関連領域に関わるすべての人々が連携協力し合うとともに、がん薬物療法に関する学術研究の進歩や科学的根拠のあるがん薬物療法の開発・普及により、最善の治療効果の実現、副作用の軽減、重篤な健康被害の未然防止を図り、がん医療の発展や公衆衛生の向上に寄与することを目的とした学会です。現在約5,000人の薬剤師の学会会員が、薬物治療を通して我が国のがん医療を支持・牽引すべく日々研鑽を深めております。この度、2023年3月4日(土)・5日(日)の2日間、日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023を開催する運びとなりました。大会テーマは「The path to the future ～がん患者に寄り添い支える地域医療連携のミライ～」です。がん医療に携わる様々な職種が患者の生活を考え、いかに寄り添い支えていくことが出来るのかなど、活発な議論が幅広く行われます。